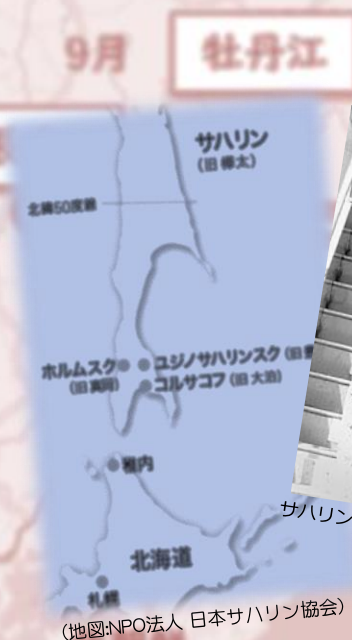


中国・樺太(サハリン)等残留邦人の
体験と労苦を伝える

「戦後世代の語り部」を 派遣します



Google地図に地名追加

ご存じですか？ 中国・樺太(サハリン) 帰国者と呼ばれる人たちのことを。
彼らが前半生を過ごした国からどのようにして祖国日本に帰り、
戦後80年近くを経た今、何を思うのか、
その体験を受け継ぐ戦後世代の語り部の声に耳を傾けてみませんか？

「戦後世代の語り部」と語り部派遣事業

「戦後世代の語り部」とは、高齢化する中国・樺太(サハリン) 帰国者の忘れ去られようとする歴史の記憶を語り継ごうと、首都圏中国帰国者支援・交流センターの3年間の育成研修に参加し、委嘱を受けた人達です。世代も30代から60代までと様々で帰国者の2、3世も含まれます。

語り部派遣事業では、その「戦後世代の語り部」を自治体や学校、団体等のご依頼に応じて(原則として旅費や謝金のご負担なく)当センターが全国に派遣します。一回の講話では、語り部が一人の残留邦人の体験について40分程度お話しします。(講話時間をご相談に応じます)



語り部の講話風景

派遣のお申し込みについての詳細は当センターのサイトをご覧ください。

【厚生労働省委託事業】「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部」派遣事業 ⇒

首都圏中国帰国者支援・交流センター

<https://www.sien-center.or.jp/>



「中国残留邦人等／中国・樺太（サハリン）帰国者」とは…

1945年(昭和20年)当時、旧満洲(中国東北部)には開拓団など多くの日本人が居住していましたが、同年8月9日、突然のソ連参戦により、居住地を追われ、逃避行中や収容所において飢餓や伝染病により死亡者が続出するという悲惨な状況が生まれました。

このような混乱の中、肉親と離別して中国の養父母に育てられたり、中国の人の妻になるなどしてやむなく中国にとどまった方々を「中国残留邦人」と呼びます。これらの人達はその後も長年にわたって日本への帰国が叶わず、“残留”せざるを得ませんでした。

また、残留邦人の一部に樺太(サハリン)や旧ソ連本土に残されていた人を「樺太等残留邦人」と称し、合わせて「中国残留邦人等」と呼びます。

中高年となってようやく祖国の土を踏むことができたこれらの人達を「中国・樺太(サハリン)帰国者」と呼んでいます。帰国者の祖国での暮らしは、戦争の傷跡に苦しみ、一緒に帰ってきた家族とともに言葉の壁や文化の違いに苦しむ日々でもありました。



荷馬車で養父母にもらわれていく妹を見送る



中国で仕事仲間と(1960年代)



ひ孫と共に



ロシア、ドイツにまたがるサハリン帰国者(前列中央)の家族

「戦後世代の語り部育成事業」研修風景



移動経路を地図で示す



古い資料を見せて説明する



体験を語る

講話を聞かれた方々からはこんな声が寄せられています！

- ★体験者でないと伝わらないと思っていたが、十分伝わってきた
- ★非体験者だからこそ伝えられるものもあるのだと実感できた
- ★この話を伝えていかなければ、という語り部の意志も同時に伝わってきた
- ★今日聞いた話は私が必ず子供達に伝えます
- ★満洲から引き揚げてきた祖父母の話聞きに行こうと思った

※写真の出典：注記のないものは(公財)中国残留孤児援護基金及び首都圏中国帰国者支援・交流センター提供

「戦後世代の語り部」派遣のお申し込みは…

中国帰国者支援・交流センターのウェブサイトの「戦後世代の語り部」派遣申込書に必要事項を記載の上、FAX かメールでお申し込みください。ご不明の点はご連絡を！ ⇒⇒⇒

<https://www.sien-center.or.jp/kataribe/indexy.html>

email : kataribe@sien-center.or.jp

Tel : 03-5807-3171 (火～日 9:30-17:45)

Fax : 03 (5807) 3174



■ 首都圏中国帰国者支援・交流センター(首都圏センター)

〒110-0015 東京都台東区東上野1-2-13 カーニープレイス新御徒町7F